

	発行者の略号	東書	三省堂
	書名	新編 新しい書写	現代の書写
（ア） 教科・ 種目に 共通な 観点	①編集の趣旨と工夫	確かな「書く力」を身につけさせ、それを日常に生かす活用力を養い、自らの文字を正しく整ったものにしていく課題解決の過程で、自主・自立の精神を養い、文字と向き合う心を育てることをねらいとしている。	学習の見通しをもち、主体的に学習を進め、次の学びへの意欲が得られるように構成するとともに、日常生活・社会生活の中で活用できる書き方のポイントがひとめでわかるようにしている。さらに、学習したことを、多様な「書く」場面で主体的に活用する力をつけ、文字文化の担い手として、文字を手書きすることの意義を見つめ直すことをねらいとしている。
	（7）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①文字を正しく整えて速く書くための知識・技能を系統的に整理して「書写のかぎ」と名付け、原則一単元に一事項配置して、確実な習得を図るよう工夫。 ②「見つけよう」で文字から「書写のかぎ」を見つけ出したり、「生かそう」で「書写のかぎ」を他の文字に応用したりする活動を通して、思考力・判断力・表現力等を養えるよう配慮。 ③巻頭の「文字を『書く』ってなんだろう」で、手書きで文字を書く意味を見つめ、将来にわたって自分の文字をより良くしようとする態度を育てるよう工夫している。	①毛筆が硬筆による書写の能力の基礎を養うことをふまえ、毛筆学習のあとには硬筆で確かめられるようにし、学習内容の定着や、他の文字にも応用できる力がつくように工夫している。 ②「学習のはじめに」では、姿勢や用具の扱い方などを丁寧に解説し、「書き方を学ぼう」では、学習のポイントを明確に提示。「振り返ろう」「書いて身につけよう」で実践的な力がつくよう工夫。 ③宛名や伝票の書き方など、生活に必要な書式を提示。 ③手書き文字の魅力や伝え広めながら社会で活躍する人物を取り上げることで、文字を手書きにすることの意義を認識できるとともに、職業観を養えるよう工夫。
	（イ）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	概ね良い。	概ね良い。
	（ウ）内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ○生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①巻頭の「文字を『書く』ってなんだろう」「書写の学習の進め方」で、見通しをもって、主体的に学習に取り組めるように配慮。 ①単元末の「振り返ろう」で対話をとおして学習を振り返ることで、思考を深めて次の学習への意欲を高められるように工夫。 ②巻末の「書写活用ブック」や「生活に広げよう」では、国語との連携を図り、手紙やポスター、本のポップ、パンフレット、ノートの取り方、レポートの書き方など、言語活動と関連する教材を積極的に取り上げている。 ②国語や他教科の学習と連携している単元・教材には、「教科書関連マーク」をつけて意識付けを図っている。 ④「文字といっしょに」で、文字の歴史や用具・用材、手書き文字と活字、社会の中で使われる手書き文字などを取り上げている。 ④書き初めにより伝統的な文字文化についての理解を深める工夫。 ⑥「これまで学んできたこと」により、小学校書写との円滑な接続。 ⑥3年生に、書道の芸術性につながる文字の表現効果を学ぶ単元や、高校の内容を紹介するコラムなどを設けたり、書道で扱う古典作品の写真を掲載したり、興味・関心を高めている。（書の古典） ⑦インターネット、タブレット等を活用して、毛筆の運筆動画や、関連する国語の教科書ページを見ることができる。 ⑧紙面内の学習要素の位置を固定化。 ⑧右利きでも左利きでも教材文字が見やすいように、教材文字を上、書き込み欄を下に配置。 ⑧ユニバーサルデザインフォントを使用。	①学習の見通しをもちやすいよう、冒頭で「学習の流れ」について解説し、「目標」「振り返り」を設け、主体的に学習に臨めるようにしている。 ①学年末教材の「やってみよう」では、対話を通して書写の学習を深められるよう工夫。 ②学習した内容を、他教材や他教科・社会生活で活用できるようにしている。 ④「資料編」や伝統文化に親しむ資料にふれることを通して、幅広い知識を得られるようにしている。 ⑥「学習のはじめに」や楷書の教材では、小学校での学習内容を整理して確認。 ⑥3年の教材や、「書写の広場」では発展的な内容を取り上げ、高等学校芸術科書道への興味・関心が広がるようにしている。 ⑦「本編」では、書写の学習に役立つ動画資料として、デジタルコンテンツを提供。二次元コードで、硬筆、毛筆の姿勢や持ち方、運筆、用具の使い方が確認できる。 ⑧朱墨を使った2色使いや、筆の移動を示すマークなどを用いる事で、視覚的に理解できるよう工夫。 ⑧アイコンで学習内容や流れが直観的に捉えられるよう工夫。 ⑧カラーユニバーサルデザインの専門家による校閲を受け、見やすくわかりやすい配色。 ⑧読みやすさ、学びやすさを追求して開発した、独自の明朝体・ゴシック体。 ⑧色による区別に加えて、形の違いや、記号・番号・説明文などの補助的な手がかりを入れている。
（エ）分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①学年の配当時数に照らして適切な単元数、分量。 ②1ページの縦横比が半紙と同比率で、書き込みしやすくなっている。	①学年の配当時数に照らして適切な単元数、分量。 ②落ち着いた色合いを基調にしており、学びに集中しやすくなっている。	
（イ） 教科・ 種目別の 観点	①毛筆と硬筆との関連をもたせるための工夫や配慮がなされているか。	①硬筆文字から「書写のかぎ」を発見し、→毛筆で書いて確認→硬筆で他の文字に生かす。 ①毛筆と硬筆の配分を考慮。	①毛筆で書いて確かめた内容を、「書いて身につけよう」などの豊富な書き込み欄をとおして、普段の硬筆の文字に生かすことができるようにしている。
	②文字を正しく整えて速く書く能力を育成するための工夫や配慮がなされているか。	②姿勢、用具の持ち方、扱い方などをカラー写真で掲載。 ②運筆を正しく行うための朱墨の図版。 ②「字形、配列を整える書き方」で、文字のバランスのとおり方をカラーで紹介。	②「書き方を学ぼう」では、正しく整った読みやすい文字を速く書くためのポイントを整理し、他の文字にも応用できる力がつくよう工夫。 ②朱墨を用いて、穂先の位置や筆脈などが理解できるよう工夫。
	③日常の学習や生活に役立つ態度を育てるための工夫や配慮がなされているか。	③「生活に広げよう」では、生徒に身近な題材を掲載している。本のポップ、お礼状、手紙、ポスター、年賀状、話し合いメモ、横書きの書き方など（「書写活用ブック」）	③「資料編」では学習場面・社会生活での書字をサポートする例を豊富に示している。手紙・送り状・のし袋・願書・原稿用紙など

	発行者の略号	教出	光村
	書名	中学書写	中学書写
(ア) 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	ワイドな紙面で半紙形を維持し、外側に単元名、目標を明確に掲載。1「書く力」～姿勢や持ち方、点画の筆使い、行書の書き方など基礎・基本を身に着ける。2「学び方」がわかる～学習過程を明確にすることで、主体的に学ぶ。3「活用する力」が育つ～各教科の言語事項や社会で役立つ書式を豊富に掲載し、日常生活で活用できる。1～3の「三つの力」を柱に構成している。毛筆での学習を硬筆に生かせるように各所に書くための欄がふんだんに用意されている。「学習を生かして書く」ページが充実している。	手書きのよさを考えることで、書写を学ぶ意義を明確にしている。教科の枠を超えて「相手意識」を持って書くというプロセスを大切にし、コミュニケーションの土台となる「書く力」を養うことをねらいとしている。学習の進め方を3つのステップで示し、「行書」を楽しく学べる「行書スイッチ」を設け、書き初めなどの豊かな文字文化に触れるための豊富な教材を用意している。3年生では、手書きとデジタルそれぞれのよさや特徴について考えるページを新たに設けている。
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①「姿勢」と「持ち方」に着目し、体幹を整えて書くための工夫がなされている。(二次元コードで運筆動画視聴) 日常で使用する多くの筆記用具を紹介し、場面に応じて使い分ける楽しさを実感できるよう工夫されている。 ②「書くこと」の変遷を扱うコラムで文字文化の系譜を知り、我が国の文化を尊重し、国際的な視点から文字文化を捉えられるよう工夫している。 ③学習手順を明確化し、主教材の学習から他字への応用、日常化までの流れをつかむことができるようにしている。	①全教材に「学びのカギ」を設け、普遍的に活用できる基礎・基本、原理・原則を明確に示している。 ②「全国文字マップ」、「書き初めマスターブック」など文字文化の豊かさに触れる多様な教材が用意されている。 ③「自分らしい文字」では、著名人の個性あふれる手書き文字を取り上げ、生徒自らも夢を描き、それに向かって行動しようとする意欲を高められる工夫がみられる。
	(4) 市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	概ねよい。	概ねよい。
	(ウ) 内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①「書写をとおして学んでいくこと」のページでは木の根→幹→枝へと樹木が成長していく様を書く力に置き換えて、書く意義を明確にして学習意欲へと繋げている。 ①学習のステップがわかるアイコン「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」を提示し、生徒自らが学習手順を一目で確認できるように工夫されている。 ②理科の植物観察のメモやレポート、社会のノートの取り方を取り上げるなど、教科横断的に書写の力を活用できるよう配慮されている。 ④著名人の書や、地域のシンボルである城跡写真を掲載し、我が国の伝統と郷土の文字文化への興味関心を高める工夫が見られる。 ⑥小学校学習指導要領で求められている「適切に運筆する能力」について、中学校では明快な筆使いの図版と導入で円滑な接続を図っている。 ⑥発展「芸術としての書道」を設け、高等学校で学習する「書道」への興味・関心を高めている。 ⑧教科書から毛筆動画などのデジタルコンテンツにリンクしており、運筆方法への理解を深めることができる。 ⑧色覚等の特性をふまえた、判読しやすい配色（ユニバーサルカラー） ⑧手書き文字と近い形で学習できるユニバーサルデザインフォントを使用。	①生徒が見通しをもって、主体的に取り組めるよう、各教材が1「考えよう」→2「確かめよう」→3「生かそう」という展開で構成されている。 ①目次に中学3年間の目標を掲げ、全教材に「目標」と「振り返ろう」を設定することで知識・技能の定着や自己の変容を確かめられる構成である。 ②「防災フェスタを開こう」では、ポスターや看板づくりなどを通して、書写の学びを生かしながら防災への意識を高められるよう工夫されている。 ③「全国文字マップ」、用具の製造工程の紹介「書く道具が生まれる」など、文字や文字文化への理解関心を深める教材が随所に位置付けられている。 ⑥「書写スタートブック」で持ち方や、字形の整え方などを示し、小学校からの円滑な接続を図り、基礎・基本を定着できるよう配慮されている。 ⑦書体に合わせた筆使いや姿勢、準備片付けなどの動画が463点用意されており、二次元コードですぐに見て、学びが深まるようになっている。 ⑧朱墨を用いて、穂先の動きや筆使いが分かりやすく示されている。 ⑧左利きの生徒のための用具の配置を示した写真を掲載、左利き用の教科書紙面や動画を用意している。 ⑧⑨目次や小さい文字には、読みやすさと見やすさを追求したユニバーサルデザイン書体を採用している。
(イ) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	②大判化（AB版）し、右ページで教材の文字を観察でき、左ページで筆順やポイントを確認できるようになっており、見やすく使いやすい。 ③書風は、平易で自然な筆使いにしており、生徒にとってわかりやすく、学びやすい。	①「別冊 書写ブック」や「書き初めマスターブック」などの付録も一冊にまとめられており、資料も豊富である。 ②常用漢字表が「あいうえお順」でカラフルに示されており、使いやすいよう配慮されている。 ②手本を見開きにして半紙の原寸大で示し、文字の大きさやバランスを捉えやすいように工夫している。	
(イ) 教科・種目別の観点	①毛筆と硬筆との関連をもたせるための工夫や配慮がなされているか。	①右ページにお手本、左ページに目標→試し書き（硬筆）→考えよう（朱墨）→生かそう（硬筆の他字）→まとめ（硬筆）で構成され、毛筆で学習したことを硬筆に生かせるように工夫されている。	①考えよう（毛筆）、確かめよう（毛筆）、生かそう（硬筆）と構成されており、毛筆で学習したことを硬筆に生かせるように工夫されている。
	②文字を正しく整えて速く書く能力を育成するための工夫や配慮がなされているか。	②毛筆のお手本では、穂先の通過を朱墨で示すことで、筆遣いがわかるように工夫されている。	②別冊「書写ブック」で、毛筆での学びを硬筆に生かし、繰り返し書くことで定着するよう工夫されている。
	③日常の学習や生活に役立つ態度を育てるための工夫や配慮がなされているか。	③「書式の教室」では、便箋や一筆箋、往復はがきや包み紙、都道府県名の一覧などが掲載されており、「学習を生かして書く」では、新聞や掲示物、案内状の書き方が紹介されている。	③「日常に役立つ書式」では、手紙、はがき、入学願書や宅配便の送り状などを掲載し、書写の学びを社会生活に役立つ工夫がなされている。 ③書体に合わせた筆使いや姿勢、準備片付けなどの動画が463点用意されており、二次元コードですぐに見ることができるようになっている。